

月報

岡崎の教育

8月号



書を見る者は固執の情を離れて正理を
見つべし

萬徳寺第二十二世住持 本田了祥
「歎異抄聞記」より



昭和50年8月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会
印刷
研文印刷社

(旧東海道の松を守る子どもたち — 藤川小)

教育随想

季節と人の心

松井末好

児童相談にたずさわっていると、人の心と季節が微妙に結びついているふしが多く見られ、人の心のデリケートさが感じられてならない。

木の芽のふく時期と木の葉の枯れる時期になると、不思議に、人の心にも、体にも、気象条件が作用して、浮わつかせたり、さびしがらせたり、かき乱したりする。春に多いのは精神病であり、秋に多いもので特筆されるものに家出がある。家出という實際行動を起す時期が、九月、十月に集中している事実はどう解釈したらいいか。気候はいいし、一晩や、二晩は野宿してもいいという安易感も手伝うかもしれないが、家出という行為は

せつばつまった重大事であり、ただ気候がよいだけではすまされなく、そこに季節というものが何かのあたりで影響しているのではないだろうか。

この時期は、離婚とか別居も多く、また、シーズンということ念頭において新聞紙上の社会面をみると、自殺したり、一家心中、無理心中したり、その



ほか、世間をあつといわせるようなできごとが意外に多いことに気づく。

児童相談の中で、シーズン性の顕著にみられるものに神経症による学校恐怖症児がいる。彼等は、九月中旬から十月中旬にかけて、ごく限られた期間に、苦しみ、もだえ、ふさぎこみ、拒否状態として現われるのが通例である。しかも、その大部分のケースの初発がこの時期に集中している。夏休みで怠けぐせができた

という人もいるが、しかし、学校恐怖症児は学校が面白くないという理由でずるずる休む意図とは本質的に異なり、彼等は学校へ行かなければならないという義務感に異常なほど固執していることからみても、怠惰心からではなく、シーズンという得体のしれない怪しげなものが関与しているものと思えてならない。

こうしたシーズンに影響しやすい人間像としては、その人柄が内向的で神経質であり、感受性に強く、自己中心でいて依存しやすく、耐える力に乏しい性格の持主といえ、幼児期から家庭で過剰保護に育てられた人に多い。

世は、情報社会ともいわれ、管理社会ともいわれ、学校生活、職場生活、そして日常生活にも神経をすりへらす題材が多過ぎ、とげとげしい精神生活を繰り返す社会環境の中に住み、この精神生活にわずかな悪条件が加われば触発される危険にさらされ、いまの世相や、社会風潮がそれを物語っている。

私たちは、一応この季節感を心にとめ、春秋や、気候の変化の激しい時期には特に冷静を保ち、こともなく危険を回避したいし、子どもの養育や、教育に当たっては、やさしい愛情を持ちながら、一方で、きびしいしつけもし、シーズンに、十分耐えられる健全な心身の持主の子どもに育成したい。

(愛知県岡崎児童相談所長)

いまはむかし

対外試合



相撲

「おらが西浦に相撲の先生が就任された」のニュースで、村は湧いた。村人は、その喜びを四本柱のある土俵づくりで答えた。ある村会議員は、土俵稽古の激励にと酒を片手に通つたため、相撲議員と渾名された。駆逐艦が近くに寄港した時の、水兵さんとの相撲大会には、老いも若きも土俵を取り囲んだものだった。

国民精神の作興、体力増強の掛け声に勢いづき、四月から十一月まで乾布摩擦と駆け足、そのまま教室に飛び込んでの裸の授業。これも戦時中ならでのことであつた。

戦後、相撲体操の流行。中学校の対外試合は、ガチャマン工場の特許寄附で作られたまわしをしめて復活した。西三大会の時、選手の服が盗まれ、交番から質屋までの裸の行進に、土俵での勇み肌もどこえやらであつたという。

陸上競技

戦前、三河オリンピックピクや運動会その他

ふるさとの自然

珍しい虫

珍しくなった虫

岡崎の希少昆虫たち

岡崎市は山地と平地の両者の地理的特徴を兼ねそなえており、そのため昆虫相もかなり豊富である。現在どれだけの種がいるかは調査不十分のため、数で示すわけにはいかないが、いろいろな意味で「珍しい」昆虫も多い。そのうち分布上特色のあるもの五種を選んで紹介する。

▼特異な形態のゲンバイイトトンボ

県内では大山・名古屋・岡崎の三か所で、全国的にもかぞえるほどしか発生地がわかっていない貴重なイトトンボである。翅が白く名前のとおり軍配のように広がっている。写真は藤川で採集されたもので、図鑑から転載した。発見されたらご一報を乞う。

▼北限が岡崎？キョウトアオハナムグリ

分布の北限は愛知県とされている。五年前常磐南小学校に勤めていたとき、子どもが持ってきてくれた虫の中に一頭だけはいっていたが、それ以後採集していない。当市以北で採集したという報告はまだ聞いていない。

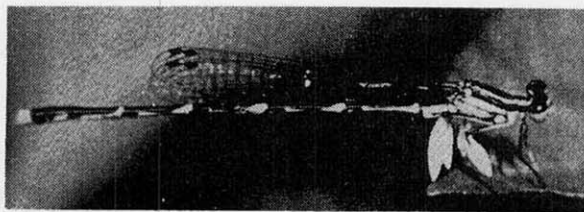
▼調査不足の水棲昆虫ヒメタイコウウチ
県内での最初の記録は西尾、ついで春日井・豊田と生息地が見つかった。国内ではかなり局地的にしか産しないと言われていた虫である。ところがつい先日、私の甥が連尺小学校横の小川で十数頭も採集してきた。この種の調査はまだまだ不十分のため、調べればかなり広い範囲に生息しているものと思われる。

▼日本最小のトンボ・ハツチョウトンボ
岡崎でもかなりさわがれた虫のひとつである。他のトンボにくらべてひ弱で、あまり遠くへ移動しないため産地が局限される。そのため農薬と宅地造成の犠牲となり絶滅寸前にまで追いやられた。

近年あちこちで発生地が発見されてきているがまだ安心はできない。

▼保護も受けずに消え去ったヒメヒカゲ
かつて大幡町におよそ二千五百平方メートルの湿原があり、そこが市内唯一の発生地であった。しかし、その湿原は今では跡形もなく埋め立てられてしまい、この蝶ももう岡崎では姿を見ることができなくなってしまう。写真は七年前に大幡町で採集したものである。一度絶滅した種はふたたび返ってこない。我々が真剣に考え、とり組まねばならない問題ではなからうか。

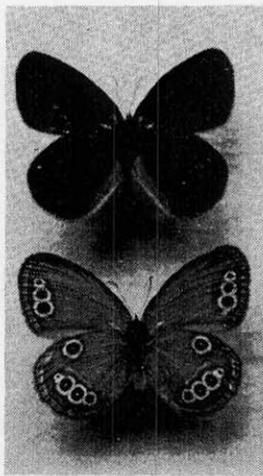
(河合中 三浦重光)



ゲンバイイトトンボ



キョウトアオハナムグリ



ヒメタイコウウチ

ヒメヒカゲ



校選手の種目に出場して、優勝旗をもつにすの夢。それは、道場破りの主人公にもつなげた。体操学校と呼ばれていた岡崎小には、県下のつわものが集まり、錬磨の成果を競い合ったものだ。

戦時、中等学校の陸上競技は、陸上競技から国防競技と呼ばれるようになった。着剣しての匍匐前進や城壁越え、衣のうを運ぶ渡河作戦、最後に突撃の一声をあげ五人一組でゴールイン。こんな経験をもつ人もいるはずである。

パレー

昭22年の新制中学の発足とともに、パレーの練習が始まった。翌23年、教職員代表も福岡国体出場に備えて、日清美合工場で合宿練習の開始。この合宿が、岡崎パレー隆盛のきっかけとなり、母胎となったという。戦後しばらくは、岡崎の先生が審判をしなければ、西三河の試合は出来ないといまでいわれた。

岡崎勢は強く、中でも南中は、県下にもその名を響かせたのである。

「ワン、ツー、スリー、ファイト」、

「ファイトを出せ」と、掛け声の飛び交う炎天下の練習は厳しく、辛かった。コート周りのには、二十個ほどの散水用バケツが並べられた。時には、バケツの水は、選手達の顔や胸元に激しく当たり、飛び散った。高校入試よりもスポーツに力を入れ、高校との練習試合に闘志を燃やした時代があったのである。

(片岡利夫・神谷四士保・宇野五郎・)

(木藤広二先生のお話から)

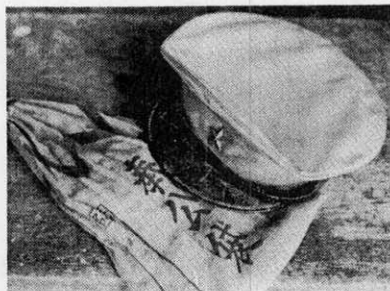
国破れて山河あり

松井 貞雄

私が、終戦の放送を聞いたのは、前橋陸軍予備士官学校であった。

昭和二十年五月一日に、学業も半ばにして、特別甲種幹部候補生として千葉県習志野に入隊した。前橋に移って迎えた終戦後は、約二週間やることもなく、毎日、食べて寝ての虚ろな生活が続いた。

八月二十六日に解隊式があり、二十八日には岡崎に帰着していた。四か月ぶりに帰った岡崎は焼野原と化していた。その街を前に万感胸に落涙を禁じ得なかった。母校の校舎も全焼していた。まだ、私の籍は学校にあったので、九月末までの繰り上げ卒業までは、豊川工廠での間借り学習が始まった。そして、十月には新任



遺書と遺髪を残して人は征った



満蒙開拓民の子ら

教師として生平小学校の教壇に立った。

「国破れて山河あり」と、私の家は才栗町にあったので、下駄ばき、巻脚絆、軍服の物々しい格好で、一里ほどの山道を二ヶ月半通勤した。特に、物資不足の中

で、教科書も満足にない学校で、新教育への模索が始まったのである。その荒涼たる生活に、唯一つの救いは、緑と清流のある美しいふるさと河合の自然環境であったように思う。

私の心中に常に潜在していたのは、学生時代の勉強不足と、教員としての適格審査であった。幸田工場への勤労働員、夜勤、耐乏生活、学校での十三里完走、寮生活での先輩との思い出など、学生時代に育てられた体験的教育による活力が、私の人生に一本の筋金となったように思う。その努力の中に自分の道が開けたといえようか。

(愛教大教授)

遠い日の挫折感

柴田 信一

外地教員派遣の願いがかない、二十七才の私が単身満州へ出発したのは、昭和十六年四月のことであった。

列車は、広ぼう千里の原野から七、八軒の民家が点在する村の駅に着いた。出迎もなく、学校も見当らない。私は電報を握りしめ、日本人を求めて右往左往した。

苦心の末、駅より五里奥の目的地に翌日たどり着く。しかし、そこには学舎も、子らの姿もなかった。新潟県人の開拓部落は、建設途上であったのである。

四月の降りしきる雪の中の挫折感。しかし、ここから始めるしかない。

電気も、机も、鉛筆もない学校。ある物といえは、自分の持って来た教科書と

転向の苦悩

片岡 利夫

現役志願をしていた私は、職業軍人と見なされ追放された。たとえ、教員がやれたとしても、今までのことを思うと、一八〇度転回して大きな顔で教壇に立つなどということは良心が許さなかった。即座に退職した。とはいっても生きていかねばならぬ。そのため百姓をやったり、マーケットに店を出したりした。しよせん、素人ではうまくいくはずがなく、長

ハーマニカだけ。やっと十一名の子らと慣れ親しんだ頃に転勤を命ぜられた。

冬はつらかった。戸外の最低気温は零下三十九度。二つのストーブを焚いても、室内は零下八度であった。子らは、「痛い、痛い」と泣いた。三才でも立てない骨なし子は、食糧事情をそのまま反映していた。畑から失敬したジャガ芋をかじる子らの口は荒れた。その盗みを諷めるどころか、「なんでも食べ、死んじやあいかんぞ」が、口癖となっていた。

十九年、思わぬ家庭事情のため、息の続く限り追って来る子らと離別。そして、終戦を常磐国民学校で迎えた。岐阜県人の開拓村が匪賊の襲撃を受け、ほぼ全滅したことを知ったのは、戦後であった。

今も私は、開拓の子らの面影と、叱咤激励した言葉を背負いながら生きている。

(矢雨小長)

男出生を機に家庭や子の将来を考えて苦悩した。

ちようどその頃、Y氏のお骨折りで教壇復帰が許され広幡小へ赴任した。

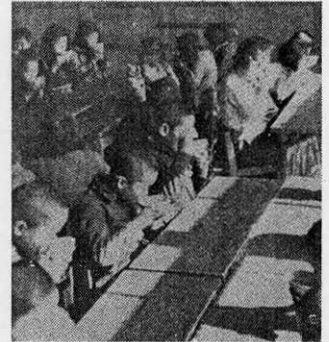
当時(昭二二)発足したばかりの葵中が同居、二部授業が行なわれたりしていた。食糧不足はひどく、払い下げのはんごうにおかゆを入れた弁当の人もいた。軍服に下駄ばき、ガラ紡タオルをネクタイにするなど珍妙なかつこうで通勤したものだ。それでも子供を可愛がる気持ちは人に負けなかった。口笛で音楽の授業を一年間やり通したが、けつこう歌ってくれた。



もんべ姿の国民学校



学童の勤労奉仕（昭和16年頃）



ミルク給食の初まり（昭和22年）

大東亜戦争が激しくなるにつれて、国民学校でも、男子は脚絆に戦闘帽、女子はもんべ姿になり、座布団を二つ折りにしたような防空頭布と鞆を持って、分団ごとに登校した。

日本の占領地を、白地図の上に赤く彩る地理の授業、修身では「八絃一字」「滅私奉公」の精神が重んじられた。歴史の時間は御神勅を暗唱してから始まった。武道もさかんであった。

週に何時間も作業の時間があつた。校

奉仕で暮れた国民学校

早川 円 浄

庭を開墾してさつま芋を植え、防空壕を掘るのに汗を流した。なかでも軍馬の飼料の干草作りはよく行なつた。伊賀川の

堤に行つて背丈ほどもある草を刈り集め、校庭へ運んで炎天に干した。この作業はとてもきついものであつた。渡り廊下

私の終戦

生きているための、苦悩の日の想いを消えない。生きることを考えるために、秘めて来られた体験の一駒を語っていただいた。文責は編集部にある。

広幡在職一年で甲山中に移り、工作を担当して生産教育に熱を入れた。いちはやく木工動力機械を設置して、大型家具類の製作に打ちこみ、学区民に奉仕したことは楽しい思い出だ。

「血の通つた教育を」という私の motto は、今もかわりない。（六ツ美中長）

虚脱感のなかで

水野 文 代

私たちは日本が必ず勝つと信じていました。だから、敗戦の報が不思議でなりませんでした。

MP から軍国主義思想の内容を削除せよという命令が出て、大事に使っていた教科書を墨をすつては塗りつぶしたものでした。一ページ全部が黒くなってしまったものもあつて、心の底から悲しく思いました。また、滋賀県で手を出して叱る教師が、MP から厳しい注意を受けたということが伝わり、信念をもって叱っていたつもりですが、迷つてしまいました。とにかく、終戦直後の急転回に自信を失い、虚脱感におちいつてしまい、自ら、半年間教壇を降りたのです。

食糧難の時代のこと、子どもたちに何を食べさせるかが大きな課題でありました。ふだんは、さつま芋の粉や小麦粉などを食べていましたが、時々、アメリカから学校にはしぶどうやあんずが配給されました。ことに、甘いあんずは子どもたちがなめるようにして喜んで食べたものです。ひとり食べてはもったいないと家に持ち帰つた子どももいました。

私は、女子師範を卒業する時の「三十分前に出動し、教室で子どもに声をかけなさい」という教えを教職を離れるまで守り通しました。（元矢南小）

四半世紀をこの道ひとすじに

多年勤続表彰者
座談会に拾う



25年勤続表彰を受けた先生方

大内清秋（三島小）
教え子が集まって昔を語り今を語る、そういうよもやま話を聞かたに、教師になってよかったと思う。単にサラリーマンであってほならないと、そのつど自らを戒める。
川本博通（常磐東小）
五級七号俸（四二〇〇円）を給する——これが初任給だった。かつての教え子が現任校のPTAの多くを占めているので、

親と子の両方から「先生」と言われ、かえって緊張する。
斉藤政子（男川小）
公私のけじめをはっきりつける……昭和一ケタ生まれの哀歎を象徴することば。私は結婚式の日も学校に出て授業をした。翌朝また平常通り出勤した。それでなければ気の済まない私だった。
鈴木祐男（六ツ美中）
良き師のご指導と先輩各位の

かがみ
小さな勇氣

中根麗子

給食の時間、手元不如意な一年生は、よく牛乳びんをひっくり返す。
S君が、青いバケツを持って来て、ひとりて拭き出す。それをじっと見ていたM君に
「手伝ってあげる？」と声をかけると、つと立ちかけて…。
「でもはずかしいなあ」と、小首をかき上げてためらう。
そこで
「いいことをするのは、ちっともはずかしくないんだよ」と、はげますと、どうやら怒りがふつ切れたようす。
やがて、S君のとてつもなく大きな、「ありがとう」に、どぎまぎしたM君は、いっきに胸のところまで、バケツを引き上げると、戸口の方へ急いだ。
(男川小)

暖かい励ましを得て『書』に精進。おかげで日展にたびたび入選することができた。殊に城北中在任中四年間、毎晩数時間練習し続けた思い出が懐しい。
神尾正昭（葵中）
母の遺言で教師になったのだが、十三年間在任した常磐中での生活が印象深い。素朴な子どもたちと薪作りまでして運動費用を買いそろえた。そんな戦後だった。
安藤幸夫（矢作北小）
人生の転機を迎えた時時に、貴重な教訓をいただいたり、暖かい指導をいただいた上司に恵まれたのは幸おせだった。
平川美也子（三島小）
男川小のころ来る日も来る日も漢字指導や長い指導話作りで苦しんだ。今になってみると大変いい勉強になったと思う。
乙川の竜宮に船を浮かべ、川魚の手作りの料理をつまみながら一杯やったりした時の楽しさ。ああ、うゆゆとりの中で人の和は自然に醸成されるように思う。
鈴木 滋（井田小）
久野みち子（常磐中）
スタートして間もなく休職する破目に陥ったが、当時教え子との年齢差も少なかったこともあって、今行きあえば共通の話題に事欠かない。
柴田 齊（南中）
中学校の経験しかないのが淋しい。とりわけ技術家庭科の内容の変化の激しさに追っかけられどうしてあったような気がする。しかし、それがかえって勉強する刺激となったのがかえって幸いであつたとも言える。
志賀 忍（南中）
二十三年間の小学校生活と離れて中学校勤務二年目。先輩になつてからの方向転換（？）で途惑いなしとしめない。新任者と同様教材研究に寧日ないこの日頃だ。



市の花 アサガオ

ことしも文化庁移動芸術祭開催

九月十三日に新劇「写楽考」公演

優れた舞台芸術をより多くの市民に、しかも低料金で開放するのを目的とした文化庁の移動芸術祭が、劇団「青年座」公園により九月十三日（土）市民会館ホールで開催される。

青年座のだしもの「写楽考」は、謎の浮世絵師東洲斎写楽を内容とした新劇。優れた舞台効果はこれまでも多くの演劇賞を受賞しており、今回の岡崎公演でも十分感銘の深いものとなる事が期待される。岡崎市及び市教委、市民運動推進連絡協議会が協力、文化庁、県教委と共催するが、昨年度の歌舞伎公演が好評だっただけに、今回も大勢の市民の鑑賞を期待している。実施要領は次のとおり。
 日時 9月13日（土）午後5

【寄贈刊物・資料等】
 ◇鉄樹―玄彦よもやま話― 佐藤玄彦著

対談形式の自伝的教育論、交友の記のほか講演記録等も収録されている。全編に硬骨、誠実情義の人の面目が躍如としていて興味は尽きないが、「三河の

生きた教育史」としても貴重な資料。B6判、三一〇ページ。
 ◇南中春秋（第五号） 南中学校編・刊

教育活動の記録のほか、随筆、郷土研究、読書感想、創作等を盛ったユニークな一校の総合雑誌。本号は緑の特集号。

時30分開場、6時30分開演▽入場料 ⅠA席千四百円（前売千二百円）B席千二百円（千円）C席六百円（五百円）すべて自由席▽前売申込 9月4日までに

■九月の研究発表校

【六ツ美中部小】
 十二日▽主題 読書指導（読まない子が読むように）▽内容 二十分間読書、公開・特設授業、分科会、パネル 北村けんじ、宇野正一、山本知都子（いずれも児童文学作家） 糟谷正孝、岸田達夫の諸先生）

市教育委員会社会教育課文化係（電二三一六四三二・六四四〇）へ料金を添えて申込み。

■走る図書館みどり号スタート

充実した市立図書館なのに遠くで利用しにくいという周辺部地域の要望にこたえて用意した移動図書館「みどり号」が、八月七日から巡回貸出しを始めた。改造したマイクロバスの書棚

■新任教員合宿研修会終了

ことしの合宿研修会は七月八日日本宿山の家で開催。まだ夏休み前とあって時間も節約し、午後一時から翌朝八時までに盛りだくさんのスケジュールを終えるというあわたしきさだったが、それがかえって参加者の真剣さをよび、一学期のしめくくりにふさわしい成果をあげた。

●昭和50年度中学校市長杯総合体育大会成績

<種目別成績>

昭和50年7月21～31日

種目	性別	成績		
		優勝	2位	3位
バスケットボール	男	美川	城北	葵
バスケットボール	女	矢作	南	美川
バレーボール	男	甲山	岩津	矢作
"	女	矢作	葵	城北
軟式テニス	男	矢作	常盤	福岡
"	女	矢作	葵	甲山
卓球	男	東海	竜海	六ツ美
"	女	東海	南	六ツ美
体操	男	葵	竜海	東海
"	女	南	矢作	葵
ハンドボール	男	六ツ美	美川	葵・城北
"	女	六ツ美	岩津	葵
剣道	男	城北	常盤	福岡・矢作
"	女	葵	矢作	東海・岩津
柔道	男	美川	竜海	葵
ソフトボール	女	城北	岩津	甲山
野球	男	岩津	甲山	南
水泳	男	城北	葵	南
"	女	甲山	城北	葵
陸上競技	男	葵	矢作	岩津
"	女	甲山	矢作	城北

<総合成績>

種別	順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合		矢作	葵	甲山	岩津	城北	美川
女子総合		矢作	葵	甲山	城北	南	東海
男女総合		矢作	葵	甲山	城北	南	岩津

第2回岡崎市小学校球技大会

第14回岡崎市小学校ソフトボール大会

第13回岡崎市小学校水泳大会……………成績

昭和50年7月21日～8月8日

種目	性別	1位	2位	3位
ソフトボール	男	附属	六名	岡崎・緑丘
"	女	大樹寺	矢作南	梅園・常盤南
バスケットボール	男	広幡	美合	愛宕・井田
"	女	三島	梅園	六ツ美北部・広幡
バレーボール	男	大樹寺	男川	山中・根石
"	女	岡崎	羽根	藤川・六名
サッカー	男	福岡	三島	六ツ美北部・岡崎
水泳	男	根石	井田	三島
"	女	根石	井田	羽根

先生第一号

岡崎市学校。明治四年二月、御馳走屋敷を利用して開設。これが、岡崎の一般市民教育の初まりである。翌年、額田県小学校と改名して大林寺へ移転。この間二年余、先生第一号を勤めたのが内田不賢。江戸で書と漢学を学び、大林寺領に帰って塾を開き、門人百余名を擁していたのが契機であろう。晩年は、神官を勤め、酒を愛し書を楽しんだと伝えられる。明治四十三年、七十八才にて没す。



「内田不賢」顕彰碑（魚町・大林寺）

この本を



寸言

▼本田了祥（一七八八—一八四二）万巻の書を蔵し、鋭利な推察と精緻な考證にたつて著作と講義に専念し、浄土真宗の教化に貢献。名利を斥け、「天爵に甘じて人爵を欲せず」と。

▼「点」を新設。埋れがちな文化的事蹟に目を留めるよすがとなることを願う。

▼夕陽を背にした秋アカネの趨がひかる。
紅くして黒き晩夏の日が沈む

誓子

・カット山本健治（竜海中）

8月の行事

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	金	中学校体操指導会（城北中）市実技講習・音楽、図工美術、算数、特殊図書館、桑谷キャンパス場開所式		17	日		
2	土	市実技講習・特殊		18	月		
3	日	岡崎市民大学（講師・吉田光邦先生）		19	火	中学校体育クラブ指導者講習会	
4	月	市実技講習・社会、家庭、技家（いずれも5日まで）生活指導部研修会（ならわ学園）		20	水		
5	火	市実技講習・国語、視聴覚VTR（6日まで）図書館自動車文庫開始		21	木	県放送教育研究会（中小企業センター）	
6	水	県中学校総合体育大会（8日まで）プール水質検査（7日も）		22	金		
7	木	市内小学校水泳大会（羽根小）		23	土		
8	金	市実技講習・書写（9日も）		24	日	岡崎子どもソフトボール大会（公園）東西三河水泳大会（豊橋）	
9	土	理科部現地研修会（高山方面）		25	月		
10	日	岡崎市民大学（講師・桑原万寿太郎先生）文化財移動教室		26	火		
11	月	小中事務職員研修会 市実技講習・英語（12日も）、視聴覚		27	水	養護教諭研修会（名古屋）	
12	火	郷土読本編集委（連尺小）		28	木		
13	水	社会教育審議会（図書館）		29	金	県PTA指導者研修会（豊橋）	
14	木			30	土		
15	金	文化財保護審議会（市役所）		31	日	文化財移動教室	
16	土	（岡崎の火花大会）					